

(事務連絡)

平 30 年 4 月 16 日

関係者各位

農研機構北海道農業研究センター
シンポジウム事務局

「自然共生型農業研究シンポジウム 2018」の開催について

新緑のみぎり、皆様にはいよいよご清栄のこととお慶び申し上げます。
標記シンポジウムの開催を計画しましたので、ご出席をお願い申し上げます。

記

- 1 開催月日 平成 30 年 10 月 22 日 (月) 10:00～17:00
- 2 場 所 つくば国際会議場 3 階 中ホール 300
- 3 主催 農研機構北海道農業研究センター

- 4 参集範囲 持続的農業・農業関連の環境問題に興味を有する市民・生産者、都道府県職員、市町村職員、農業団体職員、農業改良普及指導員、農林水産省、内閣府、公的機関・民間の研究者等
- 5 参加申込み 締切 シンポジウム：平成 30 年 10 月 15 日 (月)
情報交換会：平成 30 年 10 月 8 日 (月)

以上

シンポジウム事務局

農研機構北海道農業研究センター

芽室研究拠点

大規模畑作研究領域

上級研究員 池田成志

TEL : 0155-62-9276

FAX : 0155-61-2127

E-mail : tokachi@ml.affrc.go.jp

1. 開催趣旨

これからの農業には化学農薬や化学肥料の削減を通じた人間や環境に対する安全性の向上が強く求められている。また、国際競争力のある「攻めの農業」を展開するためには、経営コストを削減しつつ、農産物の安定供給や収量・品質の改善、減農薬を進める必要がある。即ち、石油化学に由来する物質・エネルギーの投入を最小限にした条件下で国際競争力と持続性のある農業生産技術の開発が求められている。これらの課題解決は、従来の古典的な農業技術の概念では対応が困難であり、問題解決のためには新しい視点に基づく研究や技術開発が必要である。

近年の土壤微生物研究の進歩から土壤や作物に生息する微生物の種類や量の詳細な分析が可能となり、土壤や作物の病原微生物の診断やモニタリングが飛躍的に容易となった結果、病害防除のための農業環境の衛生管理体制の合理化も大きく進めることが可能となつつつある。実際に地理的に大規模なスケールでの土壤病害の診断や疫学的研究が既に国内外で実施され始め、農業現場に役に立つ土壤微生物分析技術のロールモデルとなる研究事例も出始めている。

また、栽培場所の光環境が根粒菌や菌根菌等の有用微生物の植物への共生に強い影響を及ぼすことも明らかにされ、光環境の制御を通じた有用微生物の農業利用という新たな可能性が切り開かれつつある。このような研究は従来の農業・農学にはない光の価値についての農業生態的な理解を進め、「光」をキーテクノロジーにした新たな農業技術の創出につながるものである。

さらに、内閣府の主催する戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）において光、微生物、有機物等の活用による病虫害防除研究が推進され、日本発の光や有機物の利用による病虫害防除技術が開発されている。同時に、これらの基礎科学的な知見に基づいた国内の減農薬栽培や有機栽培の科学的な推進、そのための技術開発や商品開発、サービスの提供などの農業現場に向けた利用環境も整備され始めている。

従来まで化学農薬や化学肥料の削減に関する議論は主に人の健康科学と環境問題との関係においてなされてきた。しかしながら、近年急速に発展したフィールドメタボロミクス研究において有機質肥料や堆肥等の有機物施用を通じた土壤管理の違いが、栽培中の作物体の化学成分や収穫した農産物の品質・「おいしさ」等に強い影響を与えることが示唆され始めている。これらの知見を利用すれば、減農薬や減化学肥料、農産物の高品質化を目的とした「科学的な土づくり」や「作物・農産物の健康診断」、栽培環境の最適化に関する技術開発が可能になりつつあると考えられる。

本シンポジウムでは、内閣府の主催するSIP（「次世代農林水産業創造技術」・『持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発』）における農薬を使わない「ジャガイモそうか病防除のための新規栽培体系の開発」ユニットの5年間の研究成果を紹介する。同時に、上述のような研究を活発に展開している先進的な研究者を招待し、化学物質に依存しない最新の病害防除や微生物制御技術等の知見を紹介する場を提供することを目的とする。

2. 開催日時 平成30年10月22日（月） 10：00～17：00（開場9：15～）

3. 開催場所 つくば国際会議場 3階 中ホール300
（茨城県つくば市竹園2丁目20-3 電話：029-861-0001）

4. 講演プログラム

司会 片倉コープアグリ株式会社筑波総合研究所 所長 紀岡雄三

10：00～10：05

主催者挨拶

農研機構北海道農業研究センター 上級研究員 池田成志

10：05～10：10

SIP「ジャガイモそうか病」ユニット参画企業代表者挨拶

片倉コープアグリ株式会社 取締役常務執行役員 佐久間 藏

10：10～10：15

SIP「新たな植物保護技術」コンソーシアム代表者挨拶

農研機構中央農業研究センター 領域長 後藤千枝

10：15～11：15

土壌病対策のための植物根・土壌の診断法開発とその利用

秋田県立大学生物資源科学部 教授 古屋廣光

11：15～12：15

光による植物微生物相互作用の解明と賢い農業のための光生態学のすゝめ

佐賀大学農学部 教授 鈴木章弘

12：15～13：15

昼食

13：15～14：15

植物共存細菌群集の制御の可能性とジャガイモそうか病防除への利用

鹿児島大学農学部 教授 境 雅夫

14：15～14：45

ジャガイモそうか病防除のための新規栽培体系の開発

鹿児島県農業開発総合センター 室長 森 清文

14：45～14：55

休憩

14：55～15：25

有機物資源の循環を通じた微生物制御による土壌病害防除技術の開発

片倉コープアグリ株式会社 主任研究員 三星暢公

15：25～16：25

メタボロミクスによる農産物・食品の成分多様性評価で何が見えるか-農学・食品科学研究の未来展望

農研機構食品研究部門 上級研究員 関山恭代

16：25～16：40

農業微生物研究からの自然共生型農業への展望－総合討議・質疑
片倉コープアグリ株式会社 技術顧問 野口勝憲

16：40～16：45

総括

秋田県立大学生物資源科学部 教授 古屋廣光

16：45

閉会

5. 参集範囲

持続的農業・農業関連の環境問題に興味を有する市民・生産者、都道府県職員、市町村職員、農業団体職員、農業改良普及指導員、農林水産省、内閣府、公的機関及び民間の研究者等

6. シンポジウム参加費 無料

7. 主催

農研機構北海道農業研究センター

8. 情報交換会

開催日時 平成30年10月22日（月） 18：00～20：00 会費 5,000円

会費はシンポジウム会場の受付で申し受け、申込後のキャンセルはできません。

開催場所 エスポワール

（住所：茨城県つくば市竹園2丁目20-3

つくば国際会議場内 1階 電話：029-850-3266）

9. 定員

シンポジウム 300名、情報交換会 100名

10. 参加申込み締切

シンポジウム 平成30年10月15日（月）

情報交換会 平成30年10月8日（月）

11. 参加申込み・問い合わせ先

農研機構北海道農業研究センター 芽室研究拠点 池田成志

TEL：0155-62-9276、FAX：0155-61-2127、E-mail：tokachi@ml.affrc.go.jp

自然共生型農業研究シンポジウム 2018

参加申込書

シンポジウム締切：平成 30 年 10 月 15 日（月）

情報交換会締切：平成 30 年 10 月 8 日（月）

所属 (個人生産者は市町村名)	役職 (職業)	氏名	シンポジウム 10/15 締切	情報交換会 10/8 締切

◎シンポジウムと情報交換会について、参加（○）あるいは不参加（×）を御記入ください。

◎情報交換会会費はシンポジウム会場の受付で申し受けます。情報交換会申込後のキャンセルはご遠慮ください。領収書の必要な方はその旨をシンポジウム会場受付でお知らせください。情報交換会会場はつくば国際会議場内 1 階のエスポワールで午後 6 時から開催します。会費は 5,000 円です。

◎宿泊施設については紹介を行っておりません。各自で近隣の宿泊施設を御利用ください。

◎個人情報とは本シンポジウムの事前申込み者への資料の準備や会場設営のために使用し、目的外の使用や個人情報の流出はないように厳重に取り扱います。

◎参加申込みについての問い合わせは以下へご連絡ください。

池田成志

農研機構北海道農業研究センター

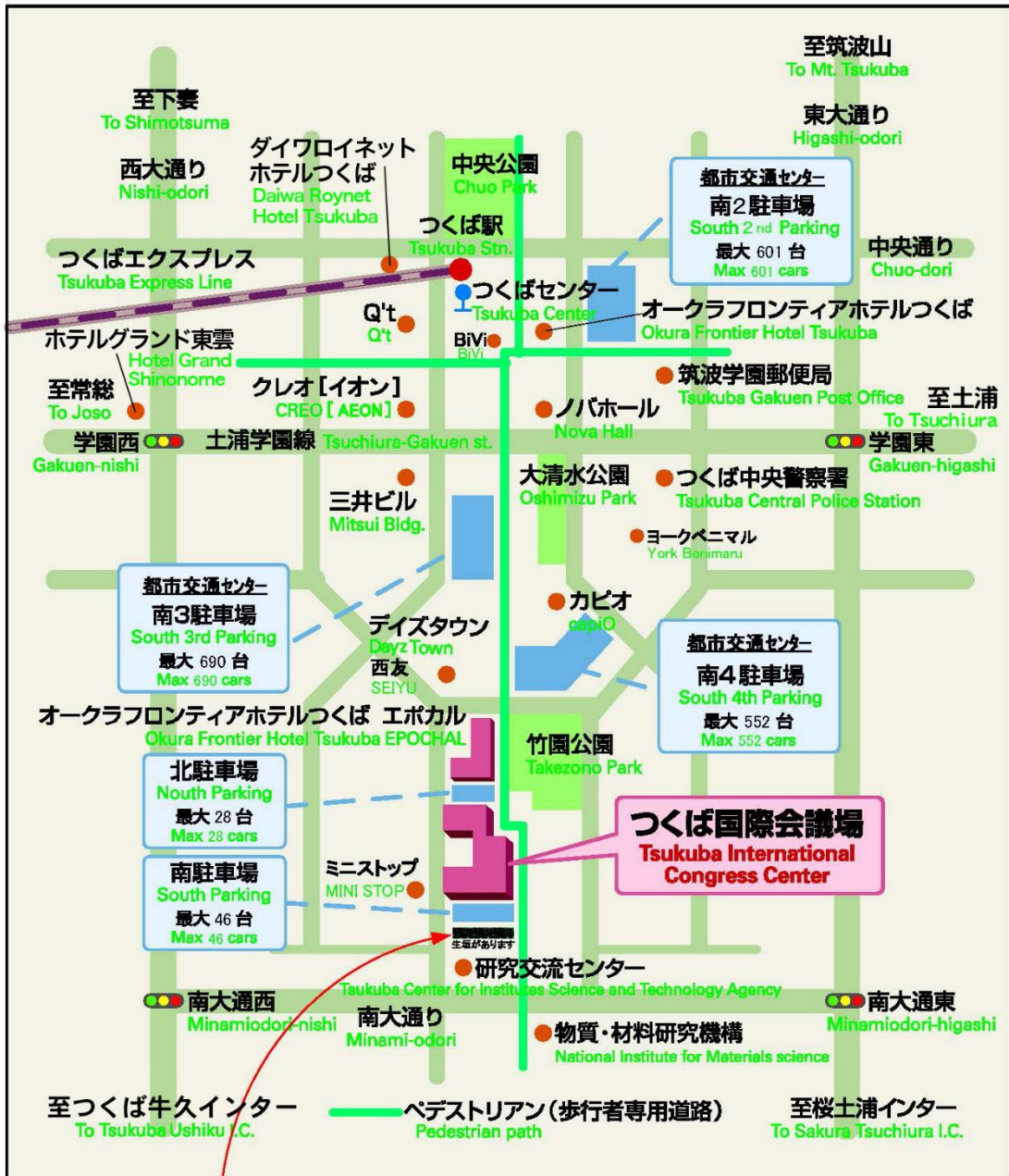
北海道河西郡芽室町新生南 9 線 4

TEL : 0155-62-9276

FAX : 0155-61-2127

E-mail : tokachi@ml.affrc.go.jp

つくば国際会議場近隣駐車場案内



※生垣があります。
 研究交流センター及び近隣の店舗には駐車されませんようにお願いいたします。